

今こそ「創造力発揮」の時

校長 萩原 哲哉

長い臨時休業が終わり、学校での教育活動が再開されました。まだまだ以前のように戻るには時間がかかりますが、とりあえず子どもたちの「姿」が、学校に戻ってきたことに対しては、率直にうれしく思います。

今、「姿」の語に、あえてかぎカッコをつけました。戻ってきたものを「姿」に限定した意味になります。まだ戻ってきていないものは、何でしょう。

まずは子どもの「声」。個々に生活が異なり、例外は多くあるのですが、三か月の間、子どもたちは「声」を出す機会が少なかったことと思います。会う人が限定されたり、そもそも、大きな声を出す機会というものがなかったりしたのではないのでしょうか。久し振りに会う子どもたちの「おはようございます」「こんにちわ」の声は、とても小さなものでした。生活への不安もあるでしょうし、お話ししようとするお友達とも一メートル……。時間をかけて少しずつ元の状態になればと思います。

戻ってきていないもの、もう一つは「笑顔」。マスクをしているせいもあるのですが、子どもたちの笑顔があふれる、という状態には、まだなりません。子どもたちも不安をたくさん抱え、「学校の新しい生活様式」に慣れようとしています。不安だけでなく、真剣さも混ざった表情です。

コロナ禍が収束したわけではありません。まだまだ注意をしていかなければならないことがたくさんありますし、御家庭・御家族それぞれにおいても、対応せねばならないことが数多くあることと思います。それでも足元にしか視線を落とせなかった時期から、わずかでも顔を起こし、顔を前に向けられる状態になったことを励みに、「やるべきこと」は確実に、「できること」は創造力（「イメージ(image)：想像する方ではなく、「クリエイト(create)：創造＝新しいものをゼロから作ること」）を発揮し、開発・発見・発明しながら、教育活動を進めて参ります。どうぞ今後とも、よろしくお力添えくださいますよう、お願い申し上げます。